

盛虹明 (もりこうめい)

日本で培ったノウハウを中国へいつまでも美しくいる秘訣は恋

日本で16年間培った、美容・形成外科の技術を母国である中国に持ち帰り、上海で開業している盛虹明さん。日本と上海で医師として活躍する先生の目に映る上海とは――？

――先生が上海に戻ってこられたのは、2004年だと思えますが、日本に行かれる前の上海と比べてどうでしたか？

そうですね。至る所に高層ビルが立っていて、日本の都会と変わらない風景にまず驚きました。それと、街の発展に伴って、上海人の美への探究心も強くなってきたように思います。結婚しても働くというのが中国人の女性ですが、近年では、収入の3分の2を自分磨きのために使っている人も多いようです。コスメも昔は質よりも安さが求められていましたが、ここ数年は、安さよりも質。経済力もついてきたことから、海外の有名ブランドコスメを使う人も増えていきますね。

――化粧品動向にもお詳しくですね。では、先生が美容

形成医師になろうと思ったきっかけはなんでしょ？

実は幼い頃、事故で身体にやけどを負ったんです。やけどの跡は、なかなか消えず、それがコンプレックスになりました。担当医は、やけどの治療はしてくれましたが、心のケアはしてくれなかったんですね。その時に、心のケアもできる医師になりたいと思ったのがきっかけです。

――それで、南京医科大学を卒業後、日本へ美容・形成を学びに行かれたわけですが、色んな壁にぶつかられたことだと思います。忘れられないエピソードはありますか？

美容・形成病院で死に物狂いで働いていた時のことですね。というのも、その院長は、私

が外国人だからといって特別扱いは一切しない人でした。日本語の問題で怒鳴られることは日常茶飯事で、術前資料を作成するのに明け方まで残っていることも多く、終電に間に合わないのが当たり前でした。その時は、人の5倍努力していましたね。

――では、どうして日本ではなく上海で開業しようと思われたのでしょうか？

当時、中国の美容・形成の技術はまだまだでした。手術を受けたい人は、海外に行くのが普通。でも、言葉が通じず、納得のいく手術が受けられないという中国人が多かったです。だから、日本で培った技術を中国に持ち帰り、母国に貢献するのも良いと思い帰国しました。

――それで上海で開業されているわけですが、中国人と日本人の患者さんで違いなどありますか？

1番は、「日本人はとりあえず様子を見る。中国人はとりあえずやってみる」ですね。エステなどでじっくり施術するより、1発で治す手術に踏み切るのは、圧倒的に中国人の方が多いです。

――なるほど。最後に、女性がいつまでも美しくいるための秘訣を教えてください。

「ずばり「恋」をすることです。恋をすると、キレイになるためのアドレナリンが多く分泌されるんです。実はこれ、エステをするより整形手術をするより効果的なんですよ(笑)。



(プロフィール)
中国江蘇省生まれ。南京医科大学を卒業後、横浜市立大学医学部形成外科で美容・形成を学び、日本の形成病院で10年間勤務。2004年より、浦東地区で「盛・美容外科」を開業している。



八佰伴(ヤオハン)近くの「中電大酒店」16階にある美容外科。日本語で安心して施術を受けられる